



慈林小だより



令和6年度7月号 令和6年6月27日

百聞は一見に如かず

校長 鈴木真由美

平安時代の作家・歌人である清少納言は、梅雨の楽しみ方として牛車に乗って山里を歩き回ることを『枕草子』に記しています。清らかな水の流れ、青々とした草、美しい景色、…。梅雨というと雨ばかりで鬱陶しいイメージがありますが、梅雨の晴れ間に水分をたっぷりと含んだ木々や草花を愛でることは、現代においても梅雨の楽しみ方の一つといえるでしょう。千年の昔から日本人に受け継がれている季節感は、これからも大切にしていきたいものです。

6月8日（土）の学校公開には、休日にもかかわらず多くの保護者・地域の皆様にご来校いただき、誠にありがとうございました。入学式・始業式からちょうど2ヶ月が経過した授業参観が、保護者の皆様にとって、子供たちが家庭で語る学校生活や友だち関係について理解を深めるよい機会となっていましたら幸いです。また、保護者の皆様には、いそがしい中でも子供たちの話をよく聴いていただき、ありがとうございます。子供たちの学校生活の大きな支えとなっています。子供は、学校であったことや自分の気持ちを家族に聴いてもらうことで安心感を得ることに加えて、自分が捉えた物事を説明する力や、人との関係や自分の気持ちを言葉で表現する力などを高めていきます。学校や家庭など様々な場で、子供が論理的に人と話し合う経験を積み重ねることは、将来、精神的に自立する力を高めることにも繋がります。子供たちが安心して日々の生活を送り、将来の自立への基礎力を身に付けられるよう、これからも学校と家庭との連携をどうぞよろしくお願いいたします。

6月19日（水）、6年生の社会科見学では、国会議事堂衆議院の見学、科学技術館での体験学習、バスの車窓からは霞が関の官庁街や都心の街並みを見学しました。毎回のことですが、バスのフロントガラスから国会議事堂が正面に見えたときの子供たちの歓声や、国会議事堂を象徴する赤絨毯が敷かれた廊下を歩いたり、本会議場を興味深く見学したりする子供たちの姿から、「百聞は一見に如かずだな。」という思いを強くします。当日、本会議のあった参議院では、会議場前で待機している記者の姿や敷地内に停車しているテレビ局の中継車を見ることができ、政治が動いていることを実感することができました。子供たちは友だちとの楽しい思い出作りに加えて、現地で実際に見たり聞いたり感じたりしたことと、社会科の授業や新聞・ニュースなどで得た知識を関連付けて理解を深め、有意義な一日となりました。

7月20日から始まる夏休みは、子供たちが様々な体験活動に挑戦する絶好の機会です。今、どのご家庭も夏休みの計画をお立てになっていることと思いますが、子供たちが本やテレビ番組、インターネットなどで知ったことについて更に知識を深めたり、実際に体験したりするような環境を用意していただくと、知的好奇心や学びに向かう力が一層高まると思います。“百聞は一見に如かず”です。夏休みだから取り組めることにも、是非挑戦させてみてください。

結びに、成長期の子どもたちが学校で頑張るためのエネルギー源は、早寝・早起き・朝ごはんの規則正しい生活と、ご家族からの承認や励ましです。1学期の仕上げである7月を暑さに負けずに意欲を持って頑張れるよう、ご家庭からも支えていただけたら幸いです。地域の皆さまにも、放課後や休日の子供たちの見守りにご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。